

最終回 市民ワークショップ 「私たちが考える、地区内公共施設再配置案」 をテーマにグループ討論を行いました

回覧

7月2日（土）芋井公民館で、市が主催する最後の「芋井地区の公共施設について考える 市民ワークショップ」を開催しました。

既存の公共施設の再配置についてグループ討論を行い、まとめとなる意見発表を行いました。アドバイザーの前橋工科大学堤准教授から講評いただき、長野市樋口副市長から御礼のあいさつを申し上げ、最後に参加者全員で記念撮影を行って、芋井地区のワークショップは幕を閉じました。



各グループから、芋井地区の公共施設再配置について提案をいただきましたが、再配置の方向性は見えてきたように思います。（次ページをご覧ください）

今後、具体的な再配置計画の策定につきましては、今回のワークショップでいただいたご意見等を参考に、住民自治協議会をはじめとする地域の皆さまと、引き続き、協議を重ねてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

**市民ワークショップや公共施設マネジメントに対するご意見、ご要望など
ありましたら、遠慮なく行政管理課または芋井支所までお寄せください。**



第4回目の様子は、インターネットテレビ「愛TVながの」でご覧いただけます。長野市公式ホームページからアクセスしてご覧ください。

【お問い合わせ先】
行政管理課 公共施設マネジメント推進室
電話：224-8402
芋井支所 電話：232-7935



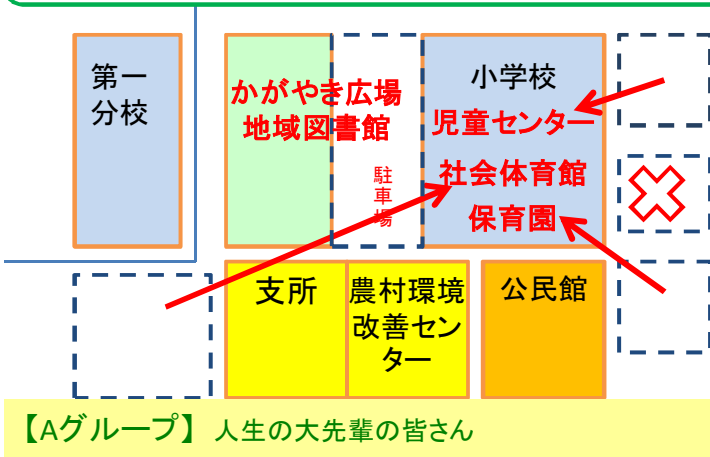
検討対象施設のイメージ



各グループの施設再配置案の概要をご紹介します

Aグループ

コンセプト【みんなが安心して暮らせるまちづくり】
 みんな=芋井地区の人々、安心して=災害に強い



《効果》

- ・小中学校に機能を集約すれば世代間交流ができる場所になる
- ・学校への集約により災害対策がしやすくなる
- ・中学校は高齢者施設や図書館など、まだ使い道がある（一部取壊して駐車場不足解消）

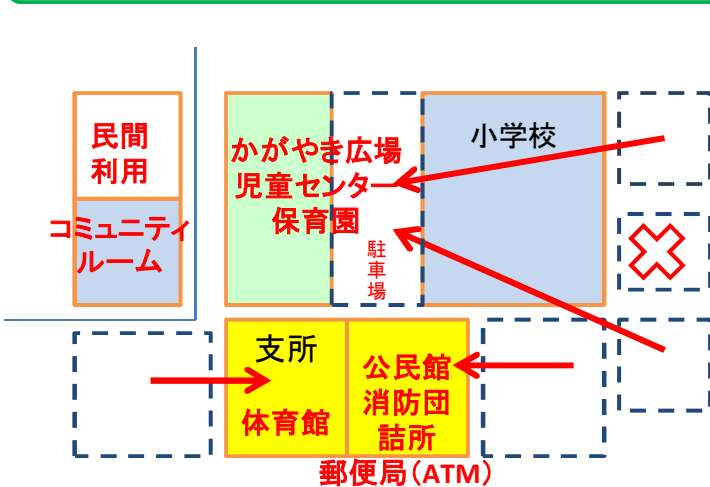
《課題》

- ・一箇所に集中すると災害時に被害が拡大する恐れがある（施設分散も必要ではないか）
- ・集約化で施設が遠くなる住人がいる（足の確保）
- ・高齢者にとって本当に使いやすいのか考える必要がある

【Aグループ】 人生の大先輩の皆さん

Bグループ

コンセプト【安全性・利便性・雇用・経済性】
 3つのゾーンを構築し、コンセプトを実現



3つの拠点ゾーン



《効果》

- ・土砂災害計画区域指定等を考慮して安全性の確保を図る（耐震性のある建物、指定区域外の施設への機能移転）
- ・バス路線等、交通の利便性の良い場所に行政機能が集約する
- ・分校は民間利用により新たな雇用の創出を図る

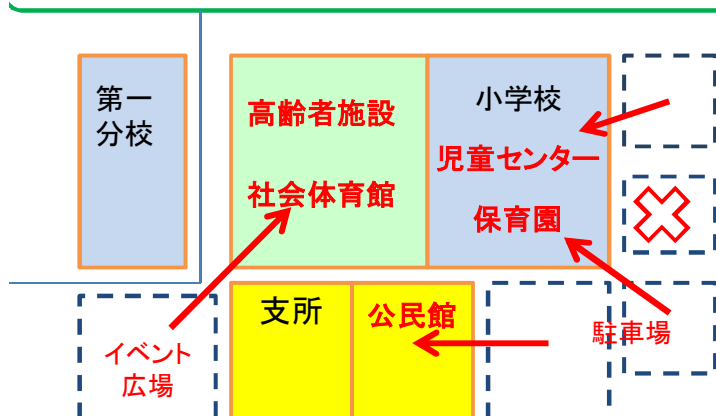
《課題》

- ・3つのゾーン間の交通手段の確保
- ・民間利用の中身（高齢者向け・若者向け？そもそも誘致できるか）

【Bグループ】 地域のリーダー世代の皆さん

Cグループ

コンセプト【 地域一丸 !! 】 地区内外、老若男女を問わず交流が行える場所を作る



第一分校は飯綱地域との交流拠点

芋井版ぐるりん号を走らせる

体育館跡はイベント広場
他は駐車場に

《効果》

- ・小中学校では、地域ぐるみで安心・安全な子育て、世代間交流でお年寄りが元気になる
- ・支所に公民館を集約させ利便性が向上する

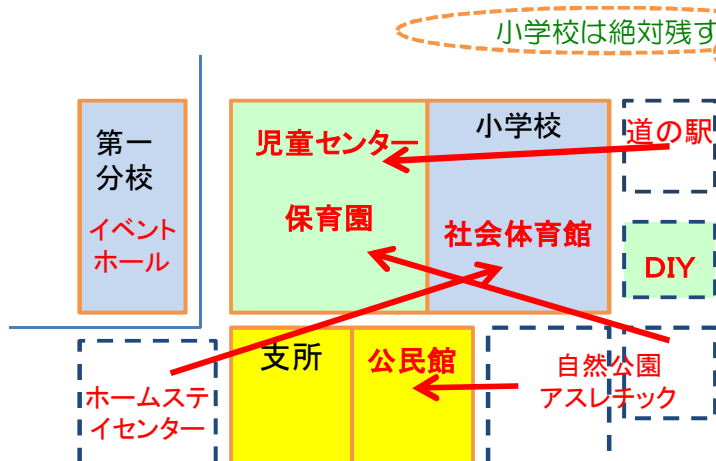
《課題》

- ・交通手段の確保（芋井版ぐるりん号）
- ・集約化により施設利用が増えるため駐車場不足が懸念される
- ・施設の建て替えなど再編にかかるコスト

【Cグループ】働き盛りのお父さんお母さん

Dグループ

コンセプト【 若返れ!! 芋井!! 】 若手のリクルート、自然を残し昔の良きものを活かす新しい芋井、子育てや子どもにやさしい自然を活かす



小学校は絶対残す

芋井版ぐるりん号を走らせる

農業・イベントで若者向け雇用活性化

《効果》

- ・支所への集約により連絡の取りやすい地域運営が可能になる
- ・移転後の跡地には自然公園やホームステイセンターなどを整備（安心できる子育てを）
- ・教員住宅はDIYの実践の場として開放する
- ・芋井地区ならではのイベントを開催するスペースができる（魅力的な場所作り＝PR）
- ・イベントホールやDIY実践の場により、若者を呼び込める

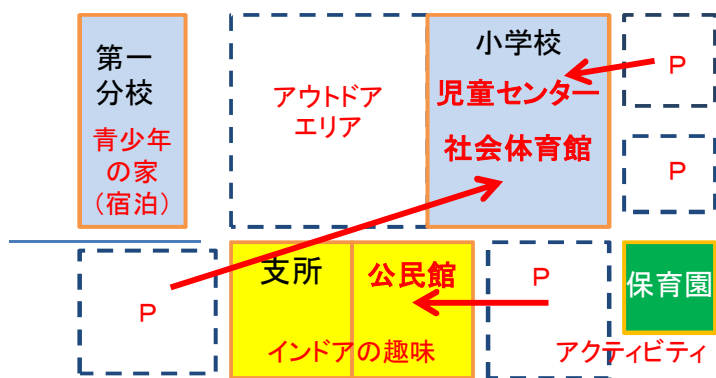
《課題》

- ・アピール方法

【Dグループ】子育て中の女性と地域おこし協力隊

Eグループ

コンセプト【週末趣味三昧ライフ in 芋井】 趣味を思い切り楽しめるエリアを作り、芋井全体をネットワーク化して活性化



《効果》

- ・支所公民館では食体験ができる。
- ・駐車場が増える
- ・分校は宿泊機能を持たせ、宿泊体験のできる趣味のエリアになる
- ・小中学校エリアは、中学校跡地を広場とし、アウトドア趣味エリアとする
- ・不要な建物を取り壊し、駐車場や広場とすることでアクティビティの幅が広がる
- ・アウトドアとインドア両方の活動が可能になる
- ・地元住民だけでなく、週末は市街地から人が訪れて賑わうように

【Eグループ】信州大学工学部の学生の皆さん

参加者アンケートの主な意見をご紹介します



自治協 和田会長

アドバイザー 堤先生

信州大学工学部生

【Aグループ】 人生の大先輩の皆さん

- ◆結論ありきでなく、いろいろな視点があり、いろいろな世代が一緒におとしどころを作っていくことができることを願っている
- ◆これからどうするのかを地域全体で話し合いたいと思う。今後の計画について知らせてほしい
- ◆グループ内のまとめは年代も違い難しい
- ◆実現できるかは別として、夢を語ることはワクワクした。実現したいこともあった

【Bグループ】 地域のリーダー世代の皆さん

- ◆いろいろな世代、地区の住民がどんな暮らし、どんな未来を描いているのか、お互いに知り合うことが出来て良かったと思う
- ◆今回参加して、改めて公共施設の一つ一つについて、利用方法を含めて考えることができた。若い世代に公共施設等よりよい地域を残すためにどうしたら良いか考える機会となった

【Cグループ】 働き盛りのお父さんお母さん

- ◆ワークショップは難しい作業だったが、今後の芋井の在り方を考える良い機会となった
- ◆地域が本気で施設のこれからを考えないと、子や孫の世代に負担を強いることになる
- ◆今回のワークショップは始まりであって、今後地域ぐるみでさらなる検討や調整を深めていき、市に提案できるものをまとめ上げていかなければならないと感じた
- ◆より多くの方々に、このような機会があれば地域全体で考えていけるのではないかな

【Dグループ】 子育て中の女性と地域おこし協力隊

- ◆世代別のグループでやってみて、老若男女混ざったグループもやってみたらよいのでは
- ◆芋井地区の若手を集めて10年後、20年後の芋井を考える場を作りたい
- ◆「やりたいこと探し」なのか「公共施設をいかに使うか」なのか、最後まで論点と内容がずれていた気がする
- ◆中山間地域で「50年続く活動」を見つけるのは難しい。公共施設は存続し得ないことになる

【Eグループ】 信州大学工学部の学生の皆さん

- ◆中山間地域の課題は全国共通なので、中山間地域の公共施設問題のケーススタディとして有効なものになればと考えた
- ◆誰が使うのか、どうやって使うかなど、深いところまで考えることが出来ず少し悔いが残る。学生チームとして何か残すことができたか分からないが、学生は得ることがあったと思う
- ◆4回のワークショップを通して、公共施設の意味が前提から分かり、公共施設について深く考え直すことができた

【堤先生の講評から】「公共施設を通して「生活」を考える。公共施設は地域全員のものだから、他人任せの施設整備で生活の質は向上しない⇒地域全員で考える。住民の役割は、施設への要望をするだけではなく、自分たちが続けられる活動を自治体に示すこと。自治体の役割は、明確な根拠をもって方針を示すこと。ワークショップのような施設整備を考える機会を、今後の整備計画に活用するために、住民と行政がそれぞれの役割を果たしながら協働すること。

ワークショップメンバーの皆さま、住民自治協議会の皆さま、ありがとうございました。
今後も引き続き、ご協力をお願いします。

